

単元名 日本とつながりの深い国々（東京書籍）

本時7 / 7時間

本時のねらい

育成を目指すプログラミング的思考

他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解できる。（知・技）

抽象化



目的に応じて、物事の特徴や要点を抜き出す。 Stage2

本時のねらいとプログラミング的思考との関連性

本時の学習では、プログラミング的思考の中の抽象化の思考を取り入れ、自分の考えをまとめるために、日本とつながりの深い国々について共通点と相違点を抜き出す活動に取り組む。共通点と相違点に絞って表に整理することで、それぞれの国の特徴や要点を捉えやすくなり、本時のねらいを効果的に達成できる。

学習ツール

Viscuit

Scratch

スライド

スプレッドシート

無

プログラミング的思考に関する活動の流れ  
（展開を想定）

●教師の発問・指示

◇指導上の留意点

※学習ツールを使用する際の留意点

導入

- 1 日本と交流の深い国々に関して、日本との共通点と相違点を、スライドに整理する。

※Google Classroom にリンクを貼る等、児童がスライドにアクセスできるようにしておく（実態に応じて、印刷して配布し、ワークシートとして活用してもよい）。

◇前時まで、自分で選んだ国（主に、アメリカ、中国、フランス、ブラジル）に関する学校生活、文化、産業について調べさせ、国際交流の役割を話し合わせておく。

●「日本と交流の深い国々について、日本と似ているところと大きく違うところを見つけて、スライドに整理しましょう。」

◇箇条書きで書く、調べた写真を取り入れる等、工夫しながらまとめるよう声掛けをする。

◇整理できない児童には、教科書の資料に着目させたり、具体的な例を提示したりする等の支援をする。

展開

- 2 共通点と相違点についてまとめたことを、グループで話し合う。

【予想される児童の反応】

- ・アメリカの行事は日本でも楽しんでいるものが多い。
- ・ブラジルでは、たくさんの民族が尊重し合って暮らしている。
- ・フランスでは、学校が9月に始まったり、水曜日が休みだったりする。

●「日本と交流の深い国々について、似ているところと大きく違うところを話し合いましょう。」

◇3～4人で学び合いができる場の設定や声掛けを工夫する。

（例）・席を移動させてグループを作らせる。

・立ち歩いてグループを作らせる。

・スライドを活用して、ワークシートを見合うことができるようにする。

終末

- 3 自分の考えをまとめる。

【予想される児童の反応】

- ・どの国も、伝統行事を大切にしていることが分かった。
- ・国によって文化は違うけれど、お互いを尊重していくことが大切だと思った。

●「日本と似ているところと大きく違うところを整理してみて、分かったことや考えたことを書きましょう。」

◇考えがまとまらない児童には、共通点についてどう思ったか、相違点についてどう思ったか、別々に考えるよう声掛けをする。

組	番	名前
---	---	----

国名	日本と似ているところ	日本と大きく違うところ



考えたこと
-------

国名	日本と似ているところ	日本と大きく違うところ
アメリカ	野球やアメリカンフットボールなど、スポーツを楽しんでいる。	多文化社会で、異なる文化を持った人々が理解し合って生活している。
中国	日本のお正月にあたる「春節」がある。	2016年まで一人っ子政策が行われていて、ゆずりあいの心を教える授業がある。
フランス	信仰の自由が保障されている。	農業と観光業がさかんで、食料自給率が高い。
ブラジル	学校の勉強は、国語、算数、社会、理科などがある。	さとうきびを使ったバイオエタノールの燃料としての活用が進んでいる。

考えたこと

日本とつながりの深い国々を調べて、行事を大切にしているところなど、日本と似ているところがたくさんあると分かりました。今回学習した4つの国は、多文化社会の国が多く、お互いを尊重し合っていることも分かりました。私たちも、日本の中で異なる考えを持つ人を尊重したり、他の国の文化を理解することが大切だと思いました。